門出を祝福

卒業式 参列制限し感染予防

本学は令和3年度卒業式を3月20日、パシフィコ横浜国立大ホールで挙行した。今年は昨年に続き新型コロナウイルス感染防止のため卒業生と教職員のみの参列とし、午前・午後の2回に分けて実施。午前の部では、大学院全研究科と政経、体育、経営の3学部、午後の部では理工、法、文、21世紀アジアの4学部の卒業生が式典に臨んだ＝写真。

令和3年度の学位取得者は、学部2739人、大学院修士課程83人、博士課程6人。うち留学生は113人だった。

父母にはライブ中継

式では、国歌斉唱に続き学位記授与が行われた。午前の部では、大学院博士の学位がスポーツ・システム研究科の河野洋志さんはじめ6人に、修士の学位が代表して工学研究科の尾崎賢さんに、佐藤圭一学長からそれぞれ授与された。

学士の学位は、政経学部の鶴川愛結さん（午前の部）と21世紀アジア学部の石井南緒さん（午後の部）が代表して受けた。その後、優秀修士論文賞授与（午前の部）、優等賞授与、柴田徳次郎賞授与と進み、佐藤学長が式辞を、大澤英雄理事長が祝辞を述べた（**要旨別掲**）。

在学生代表送辞は、午前の部で醍醐花菜さん（体育3年）、午後の部で大塚奈々さん（理工3年）が、卒業生代表答辞は午前の部で宮沢匠さん（経営学部）、午後の部で山田紗弥加さん（法学部）が読み上げた。最後に列席者全員で国士舘舘歌を斉唱し、閉会した。

新型コロナウイルス感染防止対策として、会場では1席空けて着席。座席番号をスマートフォンで登録させて列席者の把握に努めた。また、父母や欠席した卒業生に向けて式の様子をライブ中継し、後日オンデマンドで配信した。

学位記を手に笑顔で記念撮影する学生ら

式辞　佐藤圭一学長

「自覚者の強み」忘れずに

晴れて学位授与の栄光に輝く皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの多くは大学生活の半分をコロナ禍で過ごし、通常奨励されるはずの「人との触れ合い」が〝密〟として禁止され、長期間にわたり禁断と隔絶の憔悴極まる学生生活を強いられました。

他方で、ここに至るまでの苦難と忍耐により「人間として、学生として必須な根本原理の自覚者としての強み」を皆さんは身につけたのです。昨年4月、対面授業が1年ぶりに再開し、友人と再会を果たした皆さんの溢れんばかりの笑みや湧き上がる歓声からは、大学が真理追及の場であるとともに、教職員や仲間たちと語り合い、励まし合い、切磋琢磨することにより叶えられるものであることを再確認したのです。

さらに、皆さんはこの逆境の中でICTを活用したオンライン授業の推進により、早期にして変革に対応する能力の一端を身につけることができたのです。

ロシアによるウクライナ軍事侵攻により、世界の安全保障と経済を巡る状況は一変してしまいました。民主主義の貴さを再認識するとともに、その根幹を成す教養と理性的行動はいかにすれば身につくかが問われています。実は、その答えは国士舘の「建学の精神」「教育理念」そして「三綱領」にあるのです。これらは人類の英知を結集して築き上げた民主主義に必須の、平和を希求する全人類が共有すべき、人間としての理念型でもあるのです。このことを心に刻んでください。

母校・国士舘との〝絆〟は生涯続きます。本学の教育の真髄を身につけた皆さんをこれからも応援しています。

祝辞　大澤英雄理事長

地道な歩みで輝く人生を

ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、本学における学業の研さんと努力が実を結び、学位と卒業の栄誉を手にされました。心からお祝い申し上げます。

新型コロナウイルスのまん延により、就職活動をはじめ授業やクラブ・サークル活動など、キャンパスにおける友人や教員との交流にも大きな制限を余儀なくされました。そんな苦しい思い出も含めて、将来皆さんが自らの半生を振り返った際、自由を謳歌し、恩師や友と出会い、語り合えたこの時期が人生の貴重な部分を占めていることに、きっと気づくことでしょう。

皆さんは、大学で学んだ知識を基に「生きた学びの場」である実社会で、形を変えた学びと努力を重ねていくことになります。本学で培われた教養と人生の軸となる考え方に皆さんの努力が加わることで、今後の人生で価値が発揮され、皆さんをさらに輝かせるのです。

結果を急がず、諦めず、忍耐強く地道に一つ一つを重ねて、人生を生き抜いてください。

国士舘の四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」の最初に掲げられ、建学の礎となっているのが「誠意」です。「見返りを求めず、尽くすこと」、国士舘で学生生活を送った皆さんは幾度となく耳にした言葉でしょう。

人との関係が自らを育んでいることに気付き、支えてもらうことに感謝すると同時に、自らも人に尽くすことで感謝の気持ちをつなげていく。国士舘の卒業生として、いかなる時にも忘れないでほしいことです。

皆さんには、母校となる国士舘建学の精神の具現者として、確かな足取りで努力を続け、豊かな人生を送っていただくことを願っています。

課外活動クラブを長年指導 退職8氏に感謝状

同一の課外活動クラブで10年以上指導にあたり、令和3年度で退職の教職員8人に対し、佐藤圭一学長から感謝状が贈られた。

贈呈式は3月11日に学長室で執り行われ、6人が出席した。佐藤学長はあいさつで「本務のほかに大切な個人の時間を割いて、クラブ活動を通した学生の人間形成に寄与された。今後もお体に気を付けて、引き続きご指導賜りたい」と功績をたたえた。

代表であいさつに立った鈴木孝司少林寺拳法部監督（職員）は「40年間監督として指導にあたった。近年は女性部員の活躍や全国大会での優勝など目に見える成績が出ており、今後も微力ながらクラブと大学の発展に貢献したい」とクラブへの思いを口にした。

参加者には感謝状のほかにクラブ・サークル活動を管轄する学生・厚生課から、それぞれ指導者着任時に発行された『クラブ・サークルガイド』のクラブ紹介ページと花束が贈られた。

「大きな貢献 思いを継承」

定年退職者を送別

令和3年度の「定年退職者を送る会」が3月25日、世田谷キャンパスの国士舘大講堂で行われ、3月に定年退職の教職員20人が出席した。送る会には、大澤英雄理事長、佐藤圭一学長、岩渕公一校長ら役職者や教職員が列席し、退職者の長年の労をねぎらった。

大澤理事長は、退職者一人一人に感謝状を手渡した後、あいさつで「大きな貢献をいただいた皆さまの思いを必ず継承していく」と謝意を述べた。

続いて、退職する教員を代表して理工学部の三好由紀博教授が「学生との学びは私自身の成長にもつながった」と教員生活を振り返った。その後、職員からの花束贈呈、佐藤学長による閉会のあいさつ、舘歌斉唱と続き、最後には参加者が花道をつくり退職者を送り出した。

《退職者》

3月31日付の定年などによる退職者は次のとおり。（敬称略）

【大学教員】

的射場敬一（政経学部教授）、秋元惠美（体育学部准教授）、氏家道男（体育学部教授）、日下部辰三（体育学部教授）、藤井千惠子（体育学部教授）、三好由記博（理工学部教授、元学生部長）、国広ジョージ健彦（理工学部教授）、入澤充（法学部教授、副学長、学長室長）、高野敏春（法学部教授）、角田直也（体育学部教授、副学長、スポーツ・システム研究科長、元学長室長）

【中高教諭】

松崎謙（高等学校全日制）、小池和恵（中学校）、高橋憲治（中学校）

【職員】

吉川晃（本法人審議役）、金谷和代（財務部管財課）、筒井雅之（町田校舎事務課）、遠山一郎（募金事務室募金推進課長など）、美納清美（教務部事務部長など）、岩越隆美（教務部教務課）、高橋誠一（教務部教務課担当課長）、鈴木孝司（教務部大学院課長など）、車田享一（教務部大学院課）、岡田元子（学生部事務部長など）、屋田敏弘（学生部学生・厚生課担当課長など）、大谷茂（キャリア形成支援センター事務部長など）、石川靜雄（多摩校舎事務課長）、体育学部事務課長）、上地康夫（体育学部事務課）、竹村俊幸（21世紀アジア学部事務課）、多田幸子（理事長室、元理事長室長など）、鈴木克彦（教務部大学院課）、大木陽悦（体育学部事務課）

「コロナ禍の2年 財産に」

中・高生426人巣立つ

国士舘高等学校・中学校の卒業式が3月8日、世田谷キャンパス10号館多目的フロアで挙行され、高校生（全日制課程）370人、中学生35人の生徒が卒業を迎えた。

一人一人に卒業証書を手渡した岩渕公一校長は祝辞で「コロナ禍の2年間を過ごした皆さんが制限のある中で成しえた経験は大きな財産になる」とした上で、『臨済録』にある「随処に主となれば立処皆な真なり」の言葉を紹介し、「四徳目と感謝の気持ちで困難を乗り越え、自分の道を切り開いてほしい」とはなむけの言葉を贈った。

一人一人に卒業証書を手渡す岩渕校長

式は、新型コロナウイルス感染予防のため卒業生一人につき保護者1人の参加とした。在校生は式後、校舎入口でお世話になった卒業生に花束やプレゼントを手渡した。保護者向けに開放された別会場では、クラスごとに制作した卒業記念映像が流れ、保護者は目を細めながら見入っていた。

同5日には高等学校定時制課程の卒業式も挙行された。本年度の高等学校卒業生は合計391人だった。

「優秀論文」学生を表彰

3月卒業生を対象に、優秀論文・作品作成者や成績優秀者を表彰し、学生の努力の成果をたたえた。表彰者は次のとおり。

《政経学会第37回学生優秀論文コンクール／政経学部》

●優秀賞
小池真央、小堀友希、白井翔万、高橋茉南、長谷川あすか、山中輝久

●佳作
高野天斗、中村駿太、鳴海優人、渡部朝日

●努力賞
太田春、中島歩夢

●参加賞
永木竜太

《優秀卒業論文賞／理工学部建築学系》
土井なずな、森圭一、山下紘平、宮沢安有美、中林華

《滝澤賞／理工学部建築学系》
及川武

表彰を受けた政経学部の学生ら

《優秀発表賞／理工学部健康医工学系》
山縣みさと

《中村宗雄賞／法学部》
櫻田宣之、佐藤拓海、高橋佳佑、今井健太郎、西脇拓馬、鈴木詩、成島慶、庄司克、九島直弥、藤田伸

《21世紀アジア学会賞／21世紀アジア学部》
●最優秀賞
田中優作

●優秀賞
楊サンサン

●奨励賞
楠美亜美、勝又翔悟、篠田花音、関綾香、佐々木廉、宋辰虎、桐山徳久、本千奈

●努力賞
辻村唯、石井南緒、中村太郎

優秀修士論文賞・優等賞・柴田徳次郎賞受賞者

（カッコ内は出身校）

《優秀修士論文賞》
●政治学研究科
原フ舒

●人文科学研究科
高田華穂

●グローバルアジア研究科
諫山望

《優等賞》
●政経学部
◇政治行政学科
鶴川愛結（神奈川県立生田東高等学校）
小池真央（私立松本第一高等学校）
池田進之祐（私立東京立正高等学校）
◇経済学科
佐藤晴香（東京都立小岩高等学校）
宮川愛梨（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）
◇武道学科
平子湧也（甲府市立甲府商業高等学校）
◇スポーツ医科学科
稲田優香（茨城県立水戸第三高等学校）
富澤水音（群馬県立太田女子高等学校）
◇こどもスポーツ教育学科
齊藤由奈（新潟県立三条高等学校）

●理工学部
◇機械工学系
山本悠人（私立拓殖大学第一高等学校）
◇電子情報学系
倉田陽介（私立淑徳高等学校）
◇建築学系
及川武（東京都立東大和高等学校）
◇まちづくり学系
高橋大輔（茨城県立牛久高等学校）
◇健康医工学系
山縣みさと（福島県立磐城桜が丘高等学校）
◇基礎理学系
長崎風哉（私立八千代松陰高等学校）

●法学部
◇法律学科
平田伊織（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）
太田和磨（私立西武台高等学校）
丸岡恭一（私立昌平高等学校）
◇現代ビジネス法学科
藤巻聡基（長野県大町岳陽高等学校）
小山田拓樹（私立京華高等学校）
輝真由美（東京都立小川高等学校）

●文学部
◇教育学科
小野凜（私立恵泉女学園高等学校）
堀内佑梨（私立三田国際学園高等学校）
◇史学地理学科
反町友則（埼玉県立南稜高等学校）
木村優花（東京都立向丘高等学校）
◇文学科
加藤沙南子（高校卒業程度認定試験）

●21世紀アジア学部
◇21世紀アジア学科
篠田花音（埼玉県立ふじみ野高等学校）
辻村唯（神奈川県立荏田高等学校）
桐山皓久（私立広島城北高等学校）
田中優衣（神奈川県立茅ケ崎高等学校）
滝口紘生（埼玉県立草加高等学校）
大澤俊輔（東京都立日野台高等学校）

●経営学部
◇経営学科
竹花歩（千葉県立国府台高等学校）
吉川将生（北海道滝川高等学校）
山本尚哉（千葉県立市川東高等学校）
山田愛梨（私立千葉敬愛高等学校）

《柴田徳次郎賞》※
●経営学研究科
万暁琴

●政経学部
宮川愛梨（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）

●体育学部
小林美沙輝（神奈川県立海老名高等学校）

●理工学部
佐々木革（神奈川県立菅高等学校）
●法学部
山田木綿（東京都立小平西高等学校）

●文学部
中井夢月（私立静岡県富士見高等学校）

●21世紀アジア学部
阿部萌菜（私立三輪田学園高等学校）

●経営学部
胡桃澤亮（長野県松本美須々ケ丘高等学校）

※柴田徳次郎賞
創立者・柴田徳次郎の国士舘創設の趣旨および建学の精神を永久に堅持し、昂揚（こうよう）する目的をもって、柴田徳次郎賞基金を創設し、この目的達成に抜群の成果をあげた本学学生に対し、授与するものです。本基金は柴田家ならびに趣旨に賛同された実業家の故白川好古氏の寄付により成り立っています。

入学時の決意　公開中です

「夢をあきらめない」で

ご卒業おめでとうございます。4年前の入学式では「夢をあきらめない力ード」を配付し、これから始まる大学生活に向けたメッセージをいただきました。現在、本学ホームページで4年前のメッセージを公開しています。

これからも夢をあきらめない気持ちを大切にして大きく飛躍されることを祈っています。

↓

マスコミを追う

【新聞】

●「佐渡島の金山」の価値と世界遺産登録への課題について、日本イコモス国内委員会の委員長である岡田保良名誉教授のコメントが掲載（読売新聞2月10日）

●「超人の科学　スピードスケート」において、日本スケート連盟でスピードスケートの科学サポートチーム責任者を務める体育学部の熊川大介准教授のコメントが掲載（読売新聞2月10日）

●東京都教育委員会主催のTOKYO ACTIVEフェスで、体育学部の田原淳子教授が「東京2020大会オリンピック・パラリンピックのレガシーと体育科教育のこれから」と題して講演（TOKYO ACTIVEフェス3月1日～31日）

●防災・救急救助総合研究所の山﨑登教授がNHKカルチャーオンライン講座で「防災から減災～命を守るために何を学びどう実践するか～」をテーマに解説（NHKカルチャー3月11日）

【テレビ】

●土曜スペシャル「所でナンじゃこりゃ!?」において、文学部の長谷川均教授が中国にある世界最大級の穴の成り立ちについて解説（テレビ東京3月4日）

【在学生】

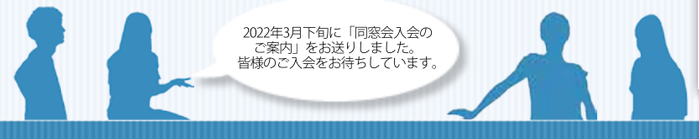
●経営学部の田中史人ゼミナールのゼミ生が行った実践的な地域活性化プロジェクトの取り組みが紹介（全私学新聞3月3日）

新4年生の皆様へ 国士舘大学同窓会入会のご案内

国士舘大学同窓会は、昭和49年の設立以来、会員の親睦互助を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的に活動してまいりました。会員数は現在約140,000人。全国に52支部を設立し、会員相互の連携・交流事業を通して絆を深めています。学園祭・就職支援など在学生会員をサポートしています。

卒業後も母校国士舘の同窓生として、後輩たちの道しるべに…

◀会員証



＜母校、在学生に対する諸事業＞
□卒業記念品の贈呈
□学園祭、学生諸行事への支援、地方父母懇談会開催時の協力 ほか
□割引率の高い学生総合保険の紹介（学費納入者が万一の場合の学費補償、疾病、傷害、賠償責任が補償されます）
□在学生のための就職支援を行う会員団体への援助（支部就職支援委員会、楓教育会など）
□母校記念事業募金の支援（同窓生への協力呼びかけ、行事企画参加など）
□箱根駅伝、各種スポーツへの支援

国士舘大学同窓会
https://www.kokushikan-dousou.jp/

国士舘大学同窓会本部 Facebook
https://www.facebook.com/kokushikan.dousou
お問い合わせ　同窓会事務局：03-3413-7303

国士舘大学・中学・高等学校保護者の皆さまへ
学生総合補償制度のご案内

さまざまなリスクを 24時間補償

団体割引 15%適用

◯学校内やレジャー、アルバイト中のケガや第三者への賠償責任、扶養者に万が一の事故があった場合の学資費用まで補償。

◯病気の補償有りのコースは新型コロナウイルス感染症での入院費も補償します。

1回の手続きで卒業予定日まで補償（途中加入も可）

お問い合わせ先：
株式会社国士舘メンバーズ
TEL：03-6804-0840